

雑感

■今日は、何気なく聞こえてくる会話から言葉の意味を考えてみた。意味を調べる本といえば広辞苑。ほとんどの人がそう答えるだろう。来年1月、10年ぶりに改訂版が出るという。加えられた言葉は約1万語。この10年の間に広がった言葉は、どれくらいあるのだろうか。予告によると「朝ドラ」「いらっ」「がっつり」「ちゃらい」等、日常会話で広がったのか、カタカナでは、「アプリ」「スマホ」「ツイート」「メアド」等、今や生活に欠かせないスマホ世代によって出てきたのだろうか。また、震災後に言われ始めた「安全神話」や「ブラック企業」等も、言われるとなるほどとうなずいてしまう。■時代とともに消えていく言葉もあるようだ。「スーパー特急」や「給水ポンプ」等である。■子どもたちの会話を聞いていると今や代表的な口語として「盛る」「やばい」などの言葉がよく聞こえてくる。職員室でも同じである。若い先生はよく使っている。「やばい」の語源は、「やば」というらしく、不都合なことや危険な状況を表しており江戸時代には、すでに使用されていたという。広辞苑によると「東海道中膝栗毛」にもその用例があるそうだ。やがて形容化し「やばい」となったらしい。作家の正岡 容がまとめた辞典では「犯人が警察から逃げて身边が危うい」ことを言うらしく、何か物騒な意味合いが含まれているようだ。■しかし言葉は、実に不思議なものでいつしか反対の意味合いで使われるようになってきた。職員室でも「これヤバいっす」と言ってくる。何か物騒なことや物を持っている訳でもない。来年発売の第7版では、「のめり込みそうである」との記述を加えるとの事。新語の扱いにたくさんの専門家を交え、慎重に検討をする広辞苑であるが、この言葉もそろそろ認めないと「やばい」のだろうか。■3年生は、テスト最終日（火曜）1・2年生は水曜から本番。子どもたちは結果を見て、どの「やばい」を発するのだろうか。